

地域防災からみる住民主体のまちづくり

—地域における公民館の役割について—

星野美紀

日本は世界と比べて非常に自然災害が多い国である。災害が多発する中で、自治体や町内会、一般企業等でも災害対策に取り組み社会全体で防災意識が高まっている。しかし、30年以内に高い確率で発生すると予想される大規模災害への備えや「地域の防災力」が不十分である地域が多い。令和2年に朝日新聞が自主防災組織の活動について調査を行ったところ、災害時の機能について「わからない」と4割が回答した。また、「高齢化」、「人間関係の希薄化」、「若者の参加」という問題があることが分かった。

本研究では、「地域防災力の不足」が問題視されている中で、住民主体のまちづくりに取り組む埼玉県富士見市水谷東地域の「水谷東安心まちづくり協議会」に焦点を当て、この協議会が地域に果たす役割を明らかにするとともに、ヒアリング調査を実施し、「地域防災力向上」の手掛かりを検討する。また、地域のまちづくりを推進するための拠点として公民館に注目し、水谷東地域のまちづくりにおける公民館の役割を検討していく。

令和3年に埼玉県富士見市が市民を対象に防災活動を含む地域活動の参加状況について調査を行ったところ、「参加している」が21.8%と他の年度と比べ減少していたが、新型コロナウイルス拡大の影響で地域活動の制限がされたことが要因であると考えられる。

水谷東安心まちづくり協議会は、公民館を事務局とし、防災訓練の実施や災害時要援護者支援活動等の様々な活動を5つの部会に分かれて行っている。ヒアリング調査において、地域課題である「災害の継承」と併せ「住民間の災害や防災意識のギャップ」が明らかになった。この問題を解決するためには、訓練の継続とより良い人間関係を築くことが重要であるという。そして、ヒアリング調査の全体考察としてまちづくり協議会の活動で評価すべき点は①総合的なまちづくり、②住民同士の団結力、③地域連携、改善すべき点は①地域の高齢化、②地域の情報発信、③災害の継承と考察することができた。

地域においてまちづくり協議会は「住民の安心・安全と楽しみを創造し、地域を守り受け継ぐ」役割、地域拠点の公民館は「人と人とのつながりを生む」役割を持つと考えた。

地域防災力向上を含む地域課題を解決するためのまちづくりには、ソーシャルキャピタルの概念が重要であり、それには地域の拠点である公民館が欠かせない。地域住民は公民館事業を通じて住民同士の信頼関係を築いていく。また、まちづくり協議会は公民館がコーディネーターとなり地域団体や行政と連携を行う。そして、地域課題解決の話し合いの場として公民館が利用される。公民館を軸としたまちづくりを行うことで地域活動が活発になり、地域が目指すまちづくりが可能になると考えられる。